

雄武中だより

【重点目標】自ら考え行動し、新たな学びに向かう力を高める生徒の育成

学校HP <https://oumu.schoolweb.ne.jp/0120012> →



9月号

令和8年9月30日(水)

発行：雄武町立雄武中学校

電話：(0158)-84-2529

家庭学習のすすめ

雄武町立雄武中学校長 辻 正 樹

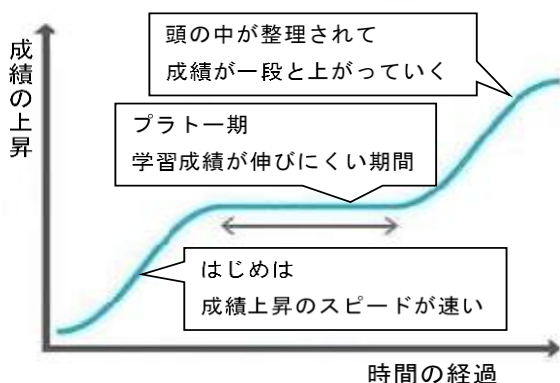
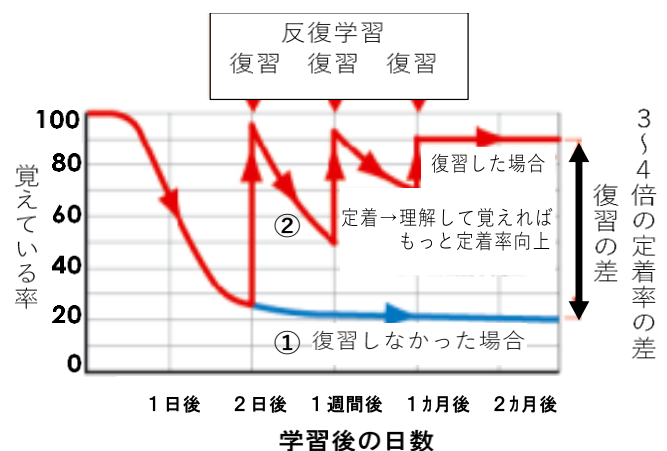
「家庭学習の習慣化」は、多くの学校で重要な課題として取り組まれており、本校も例外ではありません。今号では、自分自身を成長させるために、ぜひ家庭学習に継続して取り組んでほしいという思いをお伝えします。

まず、右の図をご覧ください。「復習しなかった場合」と示されている曲線①は、エビングハウスの忘却曲線です。学習した内容は、復習をしなければ時間の経過とともに忘れてしまい、1週間後にはおよそ80%を忘れると言われています。

一方、2日後から復習によって上昇と下降を繰り返している線②は、教育学者ラッセルの効果的復習法です。復習を繰り返すことで学習内容の定着率が高まり、大きな差となって表れます。

このグラフは、学習した日に身に付けた知識量を100としているため、学習時にどれだけ集中して理解し、知識を獲得するかも大切になります。

①エビングハウスの忘却曲線と②ラッセルの効果的復習法



次に、左の図をご覧ください。このグラフは、家庭学習を毎日継続していても、成績の伸びが一直線にはならないことを表しています。学習を続けていると、多くの人が「プラトー期」と呼ばれる停滞期を経験します。これは「頑張っているのに成績が伸びない」と感じる時期です。ある程度成績が伸びた後に伸び悩みを感じたら、それはプラトー期に入ったサインかもしれません。理想と現実のギャップに負けず、家庭学習を続けることが大切です。

プラトー期は学習を積み重ねている証でもあります。また、学習方法を見直したり工夫したりする時期が来ているサインでもあります。問題集を最初から順番に進めるだけでなく、自分の興味がある内容や苦手な分野から取り組んでみるなど、新しい工夫を取り入れることが突破口になるかもしれません。

ぜひ、プラトー期を乗り越えながら学び続けてほしいと思います。家庭学習を継続し、自ら成長していくための強い意志と粘り強さを発揮することを期待しています。

学習の成長曲線

